

消化器外科 I に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 高度門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する肝切除術に関する多施設共同研究

[研究機関] 北海道大学病院消化器外科 I

[研究責任者] 神山 俊哉 (消化器外科 I・准教授)

【共同研究代表者】 京都大学肝胆脾・移植外科 波多野 悅朗

連絡先：〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

電話：075-751-4323

【共同研究事務局】 京都大学肝胆脾・移植外科 波多野 悅朗

連絡先：〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

電話：075-751-4323

【共同研究参加施設】

北海道大学、岩手医大、千葉大学、東京女子医大、東京大学、帝京大学、横浜市大、金沢大学、京都大学、和歌山県立医大、大阪市立大学、熊本大学、東京医科歯科大学、大阪大学、神戸大学、関西医大、岡山大学、九州大学、久留米大学

[研究の目的]

肝臓に入る門脈内に癌細胞が入ることを高度門脈腫瘍栓といいます。高度門脈腫瘍栓の治療はどの治療法も成績が思わしくないため、高度門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する肝切除の成績と術前後の補助療法の実際を、全国の多施設との共同研究から明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2001年1月より2010年12月において、北海道大学病院消化器外科 I で、肝切除をおこなった高度門脈侵襲を伴う肝細胞症例。高度門脈侵襲とは、門脈一次分枝(Vp3)もしくは門脈本幹(Vp4)に腫瘍栓もしくは浸潤を伴うものです。

●利用するカルテ情報

性別、年齢、HBsAg, HCVAb, 血小板数、血液生化学検査(T-bil, Alb, PT(INR))、肝臓機能評価項目 (ICG15 分値、ICGK 値、Child-Pugh 分類)
腫瘍マーカー(AFP, PIVKA-II)、腫瘍個数、最大腫瘍径術式、他臓器浸潤の有無、肉眼型、被膜浸潤、門脈侵襲の程度(Vp3 or Vp4)、肝静脈侵襲の程度、胆管侵襲の程度、分化度、リンパ節転移の有無、他臓器転移の有無
手術時間、出血量、周術期輸血の有無
癌遺残の有無、肝線維化の程度
周術期（術前、術後）治療の有無、内容、期間
再発部位、再発しないで生存する期間（無再発生存期間）など治療後の経過

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目
北海道大学病院消化器外科 I 担当医師 神山 俊哉
電話 011-706-5927 FAX 011-717-7515